

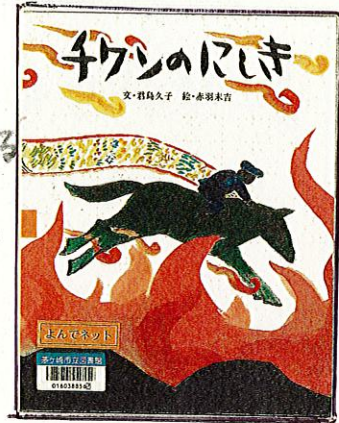
よんでネット*

秋号

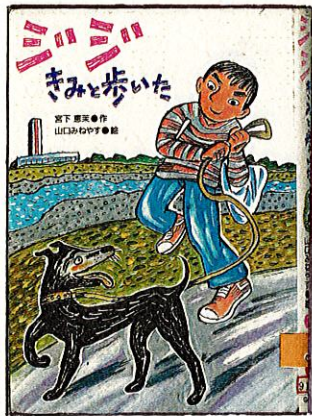
発行口茅ヶ崎市立図書館／協力口茅ヶ崎図書館子どもの本の会

『チワンのにしき』 君島久子文 赤羽未吾絵

チワンの村に何でも本物そっくりにしきとあることが出来るおばばがいた。ある日、おばばは、美しい山里の絵に心をうばわれ、その景色をにしきにおくことにする。しかし、3年とかけ、やっと出来上がったにしきを風がさら、すいすいしまう。3人の息子が順番に工かしに行くが…。おばばのにしきのゆくえは？



ポプラ社 [E・絵本のコーナー]



『ジジ きみと歩いた』 宮下恵葉作 山口みねや絵

4年生の翼は、河原でのなら犬をひろった。じいむさい顔だから、名前はジジ。友だち4人で散歩に連れていくと約束したのに、結局来生さんと2人だけで世話をすることになり…。翼は、明るくて優等生の来生さんと仲良くなり、毎日2人でジジの散歩に行くのが楽しかった。でも、来生くんにはたれにも言えないひみつがあった…。

学習研究社 [9133]

『楽しいオーケストラ図鑑』 監修 東京フィルハーモニー交響楽団

オーケストラは、ヴァイオリンなどの弦楽器、フルートなどの管楽器、ティンパニなどの打楽器で構成される大きな合奏団体のこと。一日9時間練習する人や、家ではけがをしないようにゴム手ぶくろをはめている人も、ときには100人が同じ舞台の上でひとつの曲をかなでることもある。音楽は、チームワークだ。



小学館 [76シ]

「^{まじ}魔女学校の一年生」 ミルドレッドの魔女学校」

シビル・マーフィ 作・絵
松川 真弓 訳



ミルドレッドは魔女学校の一年生。人一倍のドジで、何をやっても失敗ばかり。クラスメイトもゴブアに変えてしまったり、薬作りのテストで変な薬を作ったり。ハロウィーンのパーティーでも大失敗し、とうとう学校を逃げて出します。でも、学校をねらうあやしい一味を見つけて....。ミルドレッドのお話には、続きも3冊出ています。

評論社(933マ)

「俳句ガール」 堀直子 高橋由季 絵

自分の気持ちとすばおに、五・七・五にまとめて作るのが俳句。

赤とんぼ ちぎれた羽を かえしてよ
四年二組のつむぎは、誰にもわかってもらえない。悲しい気持ちを俳句にして、放課後黒板に書いた。すると次の日、俳句は2つに減っていた。

赤とんぼ 食う木こののどはめらかだ
つむぎはもう一度黒板に書いてみた。

テア切る 風になりにたい運動会
さて、次の日の黒板には?



小峰書店(913ホ)

「子ども おもしろ歳時記」

金井真紀 文・絵 青田仁 選句・監修

五・七・五でつくる俳句には、季節とあじわうことは「季語」を入れるのがルール。そして、「季語」がたくまんのっている本を「歳時記」という。たとえば「秋」の季語。「赤とんぼ」「秋晴れ」はすぐわかるけど、くさいとまらわれ者の「カメムシ・ハニまむし」も「みみず鳴く」も秋。みみずって鳴いたって!? 歳時記を聞いて、おもしろ季語をさがしてみてね。



理論社(911カ)